

2008年1月7日

夕張レポート<第1回>～派遣にあたって～

平成20年1月21日より都職員2名が夕張市へ派遣となります。

二人の職務を通じて夕張の様子をお知らせいたします。

第1回では、二人の紹介と、平成19年12月25日～26日に猪瀬副知事と訪れた現地視察の様子をお届けします。



北海道庁にて(左:猪瀬副知事、右:高橋北海道知事)

福祉保健局 鈴木直道さん

<自己紹介>



福祉保健局の鈴木さん

私は、平成11年に入都して衛生局に配属され、今年で9年目となります。衛生研究所で3年、北療育医療センターで2年、その間、入都2年目より職場の皆様にご協力をいただき、夜間大学へ進学し、卒業と同時に現在の保健政策部疾病対策課へ異動となり今年で4年目です。出身は、埼玉県の三郷市です。

<内示が出たのはいつ?>

主任級職選考の合格発表があり、どこへ異動希望を出そうかと考えていた時に、夕張市派遣について突然の打診がありました。その場で是非行きたいと

お話し、家族に了解を得た後、「是非行かせて下さい」と正式に回答しました。本人内示は、11月29日の午後でした。

派遣を希望した理由としては、

第一に、テレビ報道等で、市政、市民がともに手を取り合い、厳しい状況下で財政再建に向け必死で頑張っている姿を見て、「自分にできることで役に立ちたい」と強く感じたこと。

第二に、首都東京は、大都市であるが故に都市部で起こる問題には敏感ですが、地方の問題には鈍感になりがちです。夕張市の現場で直接その問題に触れ学ぶことは、今後の都政人生又は一人の人

として非常に有意義なものであると考えたからです。

< 内示が出てどんな気持ち？ >



雪道を副知事と歩く

多くの局職員の中から自分が選ばれたことを光栄に思うとともに、選ばれたということは、局又は都庁を代表して夕張市へ派遣されるのだという責任感から、身の引き締まる思いでした。

< 不安なこと、頑張りたいこと >

生活環境の変化が大きいことに対する不安はあります。しかし、夕張市では、私たちの想像を超える大きな不安の中、市民、市政が一体となって財政再建へ向け様々な取り組みを行っています。私ができることは非常に小さなことかもしれませんが、「何をやる」ではなく、「何でもやる」の精神で、担当業務にこだわらず多くの仕事に関わっていきたいと思います。

主税局 百澤俊平さん

< 自己紹介 >

主税局総務部職員課人事係の百澤俊平 28 歳です。平成 15 年度入都で、今年で 5 年目です。入都後は、都税事務所で 2 年、資産税部で 2 年 8 ヶ月勤務したあと、平成 19 年 12 月 1 日付けで現在の職場に配属になりました。出身は北海道函館市で、18 歳のとき、大学入学を機に上京しました。

都税事務所と資産税部では、償却資産に対する固定資産税の賦課事務を担当していました。派遣先の夕張市では、市税の賦課のほか、市税の徴収や、市が所有する土地建物等の管理や処分も担当するなど、広範囲な業務を行うことになっています。



主税局の百澤さん

< 内示が出たのはいつ？ >

最初に上司から打診されたのが、11 月 20 日でした。課長は「百澤さん、ちょっと話しがあるんだけど。」とおっしゃったので、私は、てっきり「あぁ、異動に関する意向の確認でもするのかな。」などと思っていたら、まさかの夕張市への派遣ということで、まさに青天の霹靂でした。

都の職員が夕張市に派遣されるというニュースは、北海道に帰省中に地元新聞で知ったのですが、当時は両親から「北海道出身だし、意外と選ばれたりするんじゃないの。」とか冗談を言われたりしたのですが、本当に現実のものになるとは思いもしませんでした。

< 内示が出てどんな気持ち？ >

正直なところ、最初は夕張市派遣に対して、積極的な気持ちと消極的な気持ちが半々でした。何しろ、都の職員以外の方と人間関係を一から築かなくてはなりませんし、生活環境もまるで東京と違いますので、やはり不安な気持ちが先に立ちました。

しかし、都庁人生において、このような経験をできる機会はめったにないことですし、東京都の外側から改めて東京都を見ることができるのは、今後も活かされる経験になると思い、夕張市への派遣を受けることにしました。



副知事直筆の色紙は夕張市役所に飾られる

< 不安なこと、頑張りたいこと >



スーパーを視察する鈴木さんと百澤さん

日常生活は、東京に比べて非常に不便なので、やはり不安な面が多いです。コンビニエンスストアや小規模なスーパーマーケットは家の近くにあるのですが、それ以外の買い物となると、車で1時間半かけて札幌まで買い出しに行かなくてはなりません。

一方、このような状況ですから、自然には恵まれた環境で、山と清流に囲まれた街なので、自然に触れ合える趣味を見つけて夕張ライフを楽しみたいと思います。

そして、ひとりの夕張市民として、市民の方々と協働しながら再建に向けて努力していきたいと思います。